



教育における男女格差の背景

- PISA（OECD生徒の学習到達度調査）によれば、読解力の男女格差は大きく、15歳児の女子は男子より好成績であるものの、デジタル読解力に関してはこの格差は小さい。実際、「成人スキル調査」は16～29歳層のデジタル・リテラシー習熟度には大きな男女格差はないことを示唆している。
- 社会経済的に恵まれない生徒の割合が高い学校に通っている男子の成績は平均以下の比率が高い。
- 状況を数学的に定式化したり、現象を科学的に解釈したりする場合のように、科学者のように考えることが求められる質問の場合、女子は一成績優秀な女子でも一男子より成績が劣る傾向にある。
- 子供に科学や技術、工学、数学などの分野の職に就いてほしいと願っている両親の期待感は、15歳の息子と娘の数学の成績が同じ場合でも、娘に対する期待感より息子に対する期待感の方が高い。

過去1世紀にわたり、OECD諸国は、学歴、給与、労働市場参加などを含め、教育や雇用の多くの分野において積年の男女格差を大幅に是正ないし解消させてきている。この事実にはまた別の事実が含意されている。生まれつきの能力に性別はない、ということである。平等な機会が与えられれば、男女にかかわらず、同じように最高の成績を収めることができる。

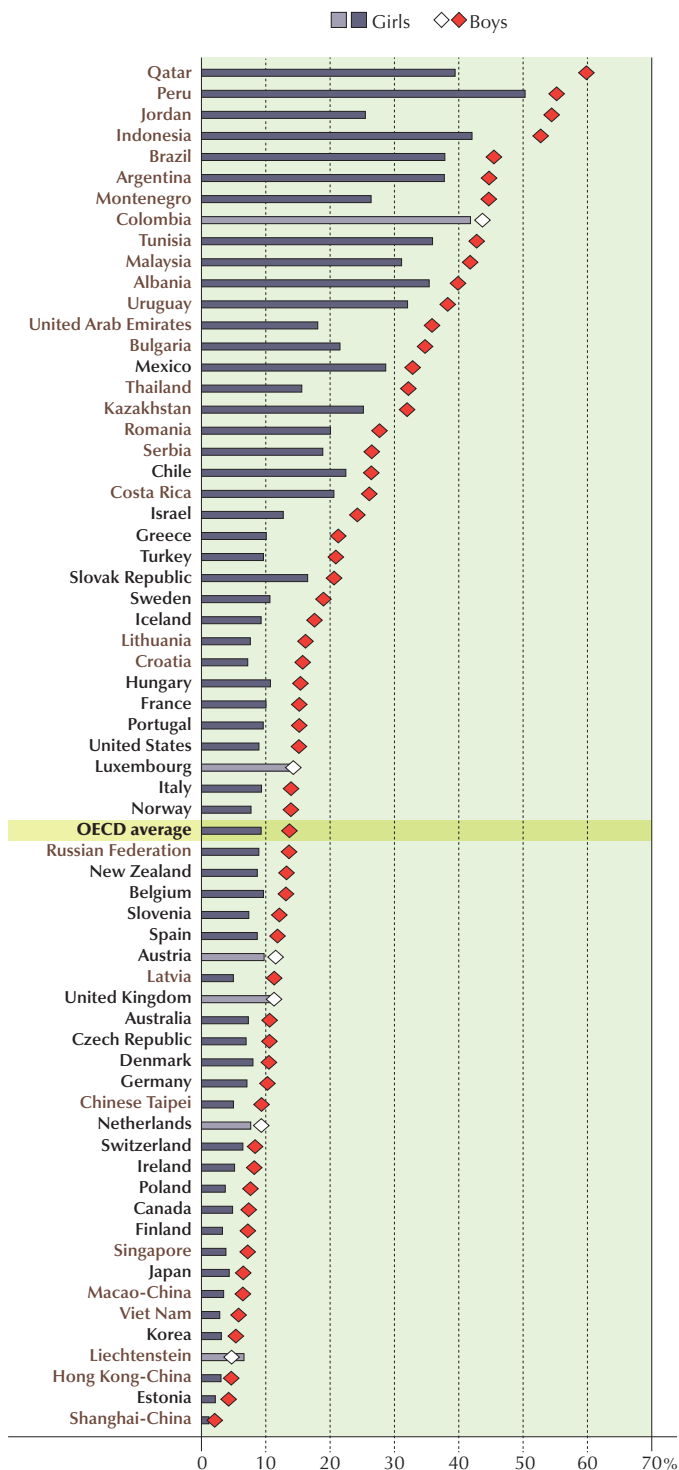
しかし、教育における新たな男女格差が生まれつつある。若年男性は若年女性より就学年数が短く、低技能と低学歴の比率が大幅に高い。若年男性は、しばしば何の資格も得ないまま、早期に退学する可能性も高い。例えば、OECD諸国では、学校は時間の無駄と回答している生徒の比率は、男子の方が女子より8ポイント高い。一方、高等教育以上を見ると、若年女性は数学、物理科学、コンピューティングなどの分野を専攻している比率が低い。2012年の場合、大学に進学した若年女性のうち、工学、製造、建築など、科学関連の専攻分野を選択した者の比率はわずか14%に過ぎなかった。対照的に、同じ年に大学に進学した若年男性の場合は、39%がこれらの専攻分野のうちの1つを選択した。

男子の低成績

PISAによれば、15歳児は男子の方が女子より全般的に得点が低い。2012年の場合、PISAが測定している3つの中核的な科目である読解力、数学、科学のいずれにおいてもベースラインの習熟度レベルに達していなかった生徒の比率は、男子が14%、女子が9%だった。実際、これらの科目のいずれにおいてもベースラインの習熟度レベルに達していなかった生徒の10人に6人は男子だった。男子の学業成績が振るわない理由はいろいろと考えられるが、その多くは男子と女子の行動の違いと関係している。例えば、宿題に費やす週当たりの時間は男子の方が女子より1時間少ないが、週当たりの宿題時間が1時間多いと、PISAの読解力、数学、科学の得点は4点高くなる。学校外で、男子は女子よりビデオゲームに費やす時間が多く、読書（特に小説などの複雑な文章）に費やす時間が少ない。読解力の習熟度は、他の全ての学習の基礎である。十分な読解力がない男子は、他の科目の成績も悪い。



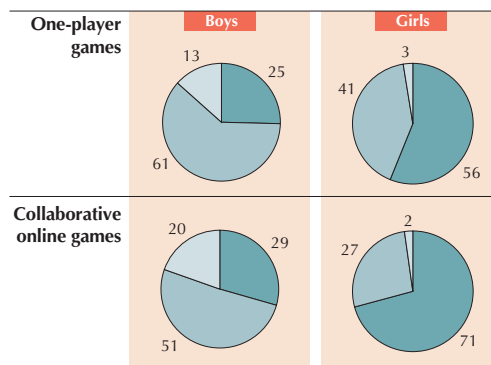
PISAの中核的な3科目のいずれにおいても男子の方が基準に達しない比率が高い
読解力、数学、科学の習熟度
レベル2以下の男子の比率と女子の比率



Note: 統計的に有意な男女差は濃い色で示されている。
国・地域は、読解力、数学、科学の低成績（PISAの習熟度レベル2以下）男子の比率が高い順に配列されている。
Source: OECD, PISA 2012 データベース

学校外でビデオゲームをする
生徒の男女差は著しい
生徒の比率、OECD諸国全体

■ Never or hardly ever play
■ Play, but not every day
■ Play every day



Source: OECD, PISA 2012 データベース

女子の自信欠如

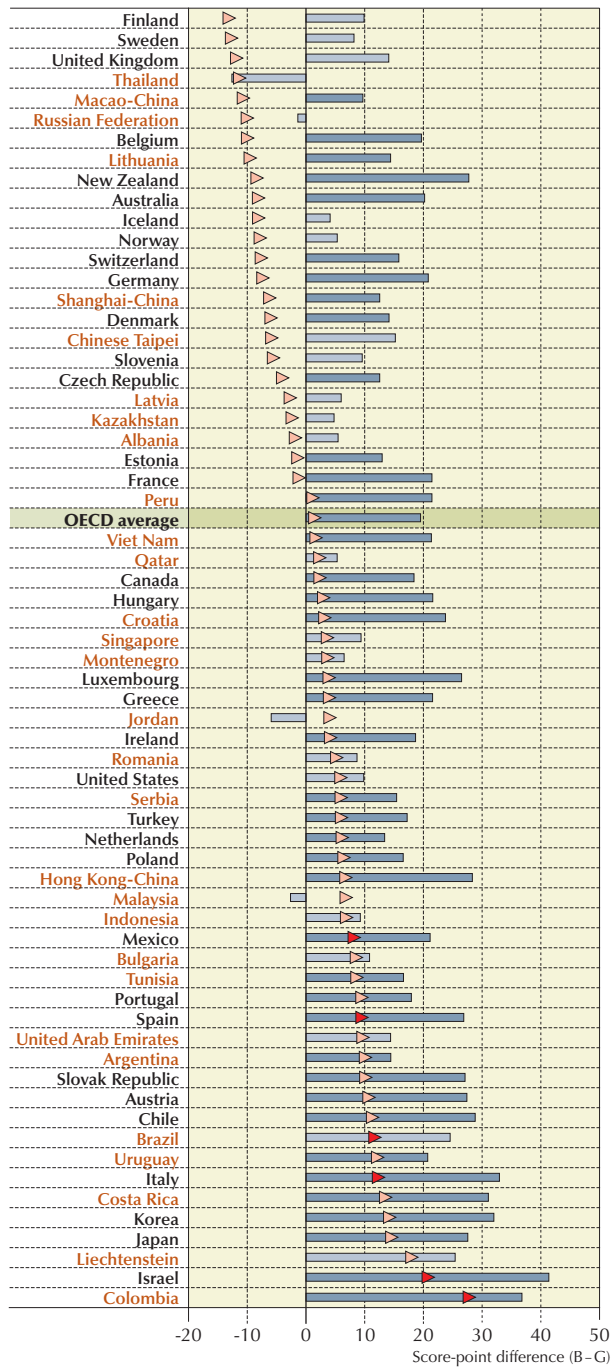
PISAに参加している大多数の国・地域において、好成績の生徒の場合でも、数学の成績は女子の方が男子より悪い。好成績の女子の方が好成績の男子より数学の成績が良い国・地域はひとつもない。一般に、数学や科学の問題を解く能力に対する自信は男子より女子の方が低い。数学に対する不安が強い生徒の比率も、女子の方が高い。好成績の女子の場合でも同じである。OECD諸国平均で、好成績の女子と男子の数学の得点差は19点である。しかし、数学に対する自信と数学に対する不安が同じレベルの男子と女子を比較すると、成績の男女差はなくなる。

PISAによれば、女子は往々にして、学校で日常的に遭遇している問題とより似通った数学や科学の問題を解く質問の方が得意である。しかし、「科学者のように考える」ことを求められる質問に関しては、女子の成績は男子の成績より大幅に悪い。



自らの能力に対する自信が同程度の場合、 数学の成績の男女格差は小さい

- Gender gap before accounting for gender differences in mathematics self-beliefs
- ▶ Gender gap after accounting for gender differences in mathematics self-beliefs



Note: 統計的に有意な男女の得点差は濃い色で示されている。
 国・地域は、数学に対する自信の男女差を考慮した得点差が低い順に
 配列されている。
 Source: OECD, PISA 2012 データベース

例えば、状況を数学的に定式化することが求められる質問では、女子の成績は男子の成績より悪い傾向にある。OECD諸国平均で、この技能に関しては男子の方が女子よりPISAの得点が約16点高く、これは約5カ月の就学期間に相当する。

現象について科学的に叙述や解釈をして変化を予測するために科学の知識を所与の状況に適用する能力についても、男子の方が女子より成績は良く、男子の得点は女子より15点高い。科学者のように考える能力のこうした男女差は生徒の自信と関係している可能性がある。生徒は、自信があるほど、失敗を気にせずに、数学や科学の知識を獲得する上で必要不可欠な試行錯誤をすることができる。

これらの結果は生徒の 将来に何を意味するのか

PISAは一貫して、一般に女子の方が男子より自身のキャリアに対する期待感が高いことを示している。しかし、OECD諸国平均で、エンジニアリングやコンピュータの職業に就こうと考えている女子は5%に満たない。ほぼ全ての国において、コンピューティングや工学分野のキャリアに就こうと考えている男子の数は、この分野のキャリアに就こうと考えている女子の数より多い。

対照的に、男子の方が女子より就職や求職への準備ができていように思われる。PISAによれば、就職面接にどのような準備をすべきか学ばなかったと回答した15歳の女子の比率は、同じ回答をした男子の比率より10ポイント高い。インターンシップやジョブシャドウイングなどの「実地体験」活動に参加したことがあると回答した比率も、男子の方が女子より高い。

男子は成長して青年になっていく中で、仕事や人生経験を通じて、学校では獲得していなかった読解力もある程度は獲得する。



PISA

IN FOCUS

「OECD国際成人力調査（PIAAC）」の成果のひとつである「2012年成人スキル調査」の結果によれば、16～29歳層の読解力の習熟度に大きな男女差はない。しかし、30代、40代、とりわけ50代、60代の労働者を見ると、仕事で読み書きや問題解決スキルを用いている比率は、男性の方が女性より大幅に高いように思われる。

教育における男女格差をどのように是正あるいは解消するのか

両親は息子に対しても娘に対しても学業や将来の志望の全てについて同じように支援し、励ますことができる。しかし、PISAの結果は、こうしたことが必ずしも行われていないことを示している。PISAのテストを受けた生徒の両親について調査した全ての国・地域において、子供に科学や技術、工学、数学などの分野の職に就いてほしいと願っている両親の期待感、15歳の息子と娘の数学の成績が同じ場合でも、息子に対する期待感の方が娘に対する期待感より高かった。

教師は、生徒への採点方法に影響を及ぼしているかもしれない自身の性的偏見を自覚することで、助けとなることができる。教師は、社会経済的に恵まれない生徒を特別に支援する方法に関して追加的な訓練を受けることもできる。PISAによれば、恵まれない生徒の割合が高い学校に通っている男子の成績は平均以下の比率が高いからである。さらに、教師は生徒に対する要求度の高い授業戦略を用いることもできる。生徒、特に女子は、教師から数学の問題を1人で解くように求められた場合の方が、数学の成績は良くなる傾向があるからである。

香港（中国）、上海（中国）、シンガポール、台湾など、PISAの成績上位国・地域の一部では、女子は数学で男子と同じ成績を収めており、世界の他の大半の国・地域の全ての男子より高得点を挙げている。また、全ての国・地域において男子は女子より読解力の得点が大幅に低い一方、成績上位国・地域の男子は他の国・地域の女子より読解力の得点が高か

結論

PISAは、学業成績の男女格差は生まれつきの能力差によるものではないことを示している。男子と女子の両者が持てる能力を十分に発揮し、自己の社会の経済成長と福利厚生に貢献できるようにするためには、両親、教師、政策決定者、オピニオンリーダーが一致協力する必要がある。

For more information

Contact Francesca Borgonovi (Francesca.Borgonovi@oecd.org) or Marilyn Achiron (Marilyn.Achiron@oecd.org)

See [The ABC of Gender Equality in Education: Aptitude, Behaviour, Confidence](#), PISA, OECD Publishing, Paris.

Visit

www.pisa.oecd.org

www.oecd.org/pisa/infocus

[Education Indicators in Focus](#)

[Teaching in Focus](#)

Coming next month

Does school climate affect students' engagement with school?

Photo credits: © khoa vu/Flickr/Getty Images © Shutterstock/Kzenon © Simon Jarratt/Corbis

This paper is published under the responsibility of the Secretary-General of the OECD. The opinions expressed and the arguments employed herein do not necessarily reflect the official views of OECD member countries.

This document and any map included herein are without prejudice to the status of or sovereignty over any territory, to the delimitation of international frontiers and boundaries and to the name of any territory, city or area.

The statistical data for Israel are supplied by and under the responsibility of the relevant Israeli authorities. The use of such data by the OECD is without prejudice to the status of the Golan Heights, East Jerusalem and Israeli settlements in the West Bank under the terms of international law.